

令和6年度ベストプラクティス企業 株式会社後藤組の取組について

長時間労働削減等に向けた取組事例



① 全員DX

ノーコードで誰でもアプリが作成できるソフトを活用し、現場担当を含む社員全員がアプリを作成。取組は以下の三本柱で行っている。

1. スキリング

講師を社員自身が務める「DXワークショップ」にて社員同士の知識の共有を図る。

2. 動機付け

社員として持つことが推奨されるスキルを難易度ごとに社内資格試験として用意し、合格した者には奨励金や資格手当を支給することで学習の動機づけを図る。

3. 横展開

作成したアプリのプレゼンを行う「DX大会」を開催し、他の事業部の取り組みを共有。

② 現場書類のペーパーレス化

- 紙の書類が多い建設現場の現状を変えるため、社員一人一人にタブレットを配布し、紙の書類を60パーセント削減。
- 毎朝現場に入場する際に記入する安全日報や、毎日重機を操作する前に記入する点検簿など、定期的に記入しなければいけない書類をペーパーレス化。また、QRコードを必要な場所に配置し、スマートフォン一つで事務所に移動することなく書類を作成できるようにした。
- 協力業者に対しても研修を実施し、現場全体でDX・ペーパーレス化を推進。

【DX化の具体的な事例】

- 営業会議の度に資料を作成していたが、日ごとの営業実績及び効果がリアルタイムに更新されるアプリを開発したことにより、会議のために作成する資料の作成時間が0となった。
- 元々社員が手書きで記入していた資材の在庫管理票を画像判定システムが組み込まれたアプリに置き換えることにより、資材の個数が即時に把握・確認できるようになった。
- 従来社員の残業時間は自己申告で把握され、月末になるまで各社員がどれだけ残業しているのかを会社が把握できない状態であったが、顔認証によるシステム上での勤怠把握に置き換えたことにより、月の残業時間のリアルタイム把握、毎日の勤怠入力漏れや不要な居残りの防止ができるようになった。

働きやすい職場の確立

以上のDX化の取り組みにより5年の間に

◎残業時間が21.1パーセント削減

(1人あたり年間131時間→103.4時間)

◎社員の3年後定着率が63パーセント→83.3パーセントに向上

◎取組について対外表彰を受け、会社のブランドアップ

◎一人あたりの労働時間が約3パーセント減少、

売上が約30パーセント上昇し、トータルの生産性は約38パーセント増加した。

ほかにも年間休日を120日に増加、5年連続のベースアップ、時間単位の有給休暇制度を創設するなどして、学生に選ばれる建設会社を目指していく。

